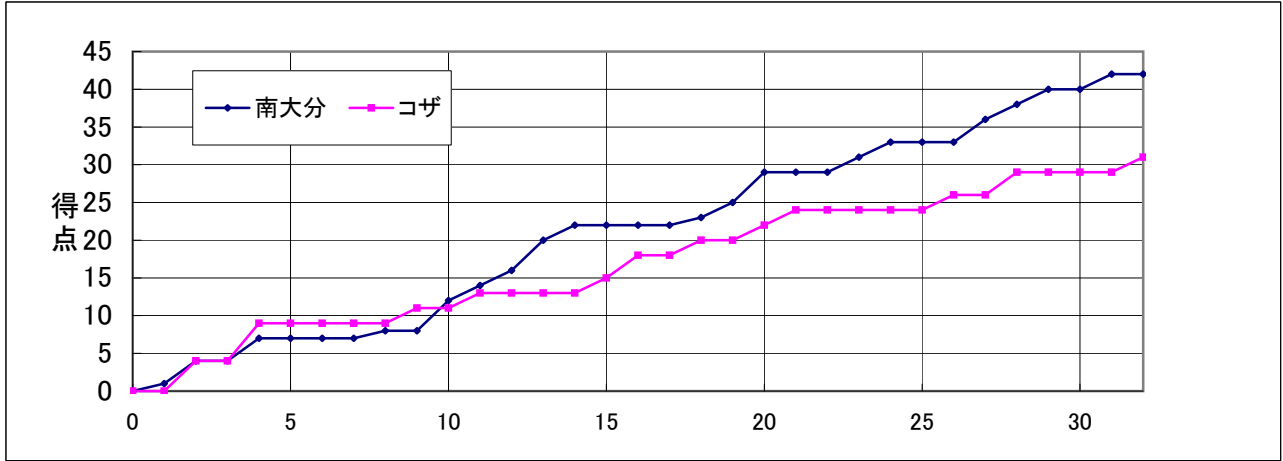


大会名	平成21年度 第30回全九州中学生 バスケットボール春季選手権大会	B1	9:30	女子準決勝															
		南大分 42 (大分1位) ○	<table border="1"> <tr><td>8</td><td>—</td><td>9</td></tr> <tr><td>14</td><td>—</td><td>9</td></tr> <tr><td>11</td><td>—</td><td>6</td></tr> <tr><td>9</td><td>—</td><td>7</td></tr> <tr><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr> </table>	8	—	9	14	—	9	11	—	6	9	—	7	—	—	—	31 コザ ● (沖縄1位)
		8	—	9															
14	—	9																	
11	—	6																	
9	—	7																	
—	—	—																	
期日	2010年(平成22年)3月14日(日)																		
会場	大分県立総合体育館																		

主審 赤岩 恒治 副審 高月 大嗣



タイム・アウト(経過時間)

1Q・2Q	3Q・4Q	OT1	OT2
15:06	31:21	—	—

南大分

No.	選手氏名	得点	3P	2P	FT	F
4	* 足立 結唯 (C)	12	1	4	1	1
5	* 後藤 優	9	0	1	7	1
6	* 毛利 葉月	4	0	2	0	1
7	* 井上 春佳	17	0	8	1	0
8	平 迫 蒼	—	—	—	—	—
9	近藤 有紗	—	—	—	—	—
10	瀬山 楓	0	0	0	0	0
11	吉田 真弓	—	—	—	—	—
12	後藤 優飛	—	—	—	—	—
13	* 芳山 愛実	0	0	0	0	2
14	児玉 樹里	—	—	—	—	—
15	藤 柴 愛	—	—	—	—	—
16	下高 美咲	0	0	0	0	0
17	八尋 加那子	—	—	—	—	—
18						
コーチ	瀬山 英則					
合計		42	1	15	9	5

タイム・アウト(経過時間)

1Q・2Q	3Q・4Q	OT1	OT2
12:43	—	—	—

コザ

No.	選手氏名	得点	3P	2P	FT	F
4	* 比嘉 茉南 (C)	4	0	2	0	2
5	* 志慶 真日菜	8	2	1	0	3
6	佐次田 友梨香	0	0	0	0	0
7	* 稲福 美南海	3	0	1	1	4
8	仲村 渠 鈴音	—	—	—	—	—
9	宮城 愛世	—	—	—	—	—
10	阿嘉 はるな	0	0	0	0	0
11	* 田仲 美紀乃	8	0	4	0	4
12	西川 祈	—	—	—	—	—
13	玉川 里奈	—	—	—	—	—
14	辺土名 優里	—	—	—	—	—
15	桃原 杏奈	—	—	—	—	—
16	* 新地 里菜	8	0	4	0	0
17	喜納 未優	—	—	—	—	—
18	久場 枝里子	—	—	—	—	—
コーチ	松島 良和					
合計		31	2	12	1	13

*…スターター (C)…キャプテン 3P…3点シュート 2P…2点シュート FT…フリースロー F…ファウル R…リバウンド As…アシスト

戦評

1Q、両チームともハーフマンツーマンディフェンスでスタート。激しいプレッシャーの掛け合いとなる。先手を取ったのは南大分、ファールからのフリースローを#5後藤が決め1点を先制する。コザの初得点は#11田仲のゴール。その後はともに粘り強いディフェンスでゴールを死守し、白熱したゲーム展開となる。8-9で1Q終了。
 2Q、南大分はインサイドの#7井上を中心にゲームを組み立て、得点を狙う。対するコザは、各選手が移動しながらドライブのチャンスうかがったリバックアなど裏をつくプレーでオフェンスを組み立てる。コザは2Q終盤スクリーンプレーを多用して得点を狙うがシュートが決まらず、南大分がリバウンドボールを取る場面が多く見られた。ともに粘り強いディフェンスは変わらず、22-18の僅差で2Qが終了した。
 3Q、立ち上がり、コザは南大分の#7井上#6毛利のポストプレーに対しダブルチームを仕掛け、南大分のオフェンスリズムを崩しにかかる。だが、南大分は#4足立のドライブや#7井上のリング下やミドルレンジのジャンプシュートで得点を重ねた。コザは南大分のディフェンスに対し攻め手を欠き、3Q後半はアウトサイドシュートが目立つ展開となった。33-24で3Q終了
 4Q、コザは2ガードからハイポストにボールを集め、南大分ディフェンスを崩しにかかる。だが、体格で勝る南大分のディフェンスとブロックショットにより、シュートの精度がどうしても上がらない。南大分はインターセプトからの速攻による得点で点を伸ばした。42-31でゲーム終了。準決勝にふさわしい見ごたえのあるゲームであった。

© 2010 Yuzo Kosaka All Rights Reserved Vol.0063

記者 瀧、中野 (所属) 大分県バスケットボール協会